

平成 28 年 度 自 己 評 価 表(中間評価)

鳥取県立日野高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 小さくてもキラリと光り輝く学校 2 一人ひとりを大切に作る学校 3 地域に信頼される学校	今年度の重点目標	1 【学力の向上】基礎学力を定着させ、確かな学力を育成する 2 【豊かな心の育成】ルール・マナーを身につけさせ、心豊かな生徒を育てる 3 【希望する進路の実現】キャリア教育を充実させ、希望進路の実現を図る 4 【開かれた学校づくり】積極的に情報を発信し、家庭・地域との連携を図る
----------------------------------	---	------------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (10) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評 価	改善方策
1 【学力の向上】 基礎学力を定着させ、確かな学力を育成する	わかる授業の実施	生徒の理解力や実態に応じた授業が行われている。	生徒が授業内容を理解し、授業規律を守り、積極的に授業を理解しようとする。	・授業ごとの目標を定め、教員はその目標を生徒に最初に明確に示してから授業に入る。 ・様々なニーズに合う特色ある選択科目を設置する。 ・生徒による授業評価を実施し、授業の自己点検を行う。 ・教員対象の各種研修を実施し、教員の指導力を高め、学校として統一した基準で指導できるようにする。	・教育課程の見直しを行い、教育内容の刷新を図っている。 ・生徒の64%、保護者の81%が授業がわかりやすく工夫されているとアンケートに回答している。 ・学習意欲の乏しい生徒へ個別対応を行ったが、改善されない生徒もある。 ・支援教育に関する職員研修を実施し、学びのユニバーサルデザイン化などの共通のフレームワークを持って指導を行っている。 ・ICTを活用した授業が増え、生徒の授業内容への興味関心が深まりつつある。	B	・継続してわかりやすい授業構成、指導方法を工夫する。 ・「学びのルール」を守れない生徒に粘り強く指導を行う。 ・次年度の選択科目調査の際に、十分説明し、進路希望と合致した選択ができるように丁寧に指導する。
	個に応じた学習指導	少人数指導・個別指導を通して、基礎学力の定着に努めている。	生徒それぞれの実態を把握し、進路希望を実現できる学力を身につける。	・進路希望や能力に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・授業形態や教材の工夫・改善を図る。 ・個別補習・個別面談などを通し、生徒の状況把握をし、進路実現を図る。	・定期考査前に個別指導を行い、遅進者に対応した。 ・夏期講習の時間帯を変更し、部活動との両立が可能な日程とし、個々の生徒の実態に応じた学習指導を実施した。 ・進学模試の案内を、全校生徒に配付し、周知・徹底を図った。 ・生徒の進路希望に応じた科目選択ができるように面接週間の個人面接で指導した。	B	・生徒の実態を把握し、一人ひとりに応じた指導方法を工夫する。 ・個別補習を充実させ、生徒の学力の向上を図る。 ・教員間でより綿密な生徒情報の共有を図って指導にあたる。
	基礎学力の養成	就職、進学に必要な基礎学力が十分身につけていない生徒もいる。	3年間を見通して進路実現に必要な学力を身につける。	・基礎学力をつけるために国英数での習熟度授業を実施。 ・基礎学力向上できる授業を行うため、指導方法を工夫する。 ・基礎学力委員会で学力向上策を検討する。	・国語、英語、数学では習熟度授業、理科、地歴公民では少人数授業を行っている。 ・全生徒が一般常識テストに取り組み、61%の生徒が知識が身についたとアンケートに答えている。	C	・基礎学力向上のための効果的な指導方法を研究し、実践する。 ・「ベーシック」、「スタンダード」、「アドバンスト」導入後の学力を分析し、効果的な指導方法を研究する。

評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2【豊かな心の育成】 ルール・マナーを身につけさせ、心豊かな生徒を育てる	TEASの推進	各種啓発活動により、環境に対する意識が高まりつつある。	校内の環境や美化について考えることをとおして、環境意識を高める。	・環境委員会を活性化し、校内美化意識向上につなげる。 ・根雨地区でのボランティア清掃を行う。 ・環境教育校外研修・環境教育講演会を通して、環境保全の必要性や環境配慮社会について考えさせる。	・各クラス環境委員がゴミ重量を計量し減量化を働きかけるとともに統計データを作成したが、分析には至っていない。 ・ペットボトルの分別など環境に対する意識が向上している。 ・高校総体期間中に、根雨町内や根雨駅の清掃ボランティア活動を行った。 ・学校評価アンケートでは、生徒の71.2%が「清掃活動や環境活動に十分に取り組んでいる」と回答している。	B	・ゴミ減量化の成果を生徒にわかりやすいように提示し、環境意識の向上を図り、行動に結びつける。
	安心・安全な学校生活	指導部と生徒支援部・各学年が連携し、全体として落ち着いた学校状況にある。	ルールやマナーを遵守した行動をとることができ、規律ある学校生活を送ることができる。	・全教職員が指導方針を統一して取り組む。 ・集団生活を営む上で必要なルール・マナーを身につけさせる。 ・服装、言葉遣い、授業中の態度などの指導を徹底する。	・「学びのルール」が生徒に十分に周知できていない。教職員の理解も十分でない面もある。 ・粗暴な言葉使いや授業中の私語等、学習に集中できない生徒がある。 ・日常の行動規範、ルールやマナーが身につけていない生徒がある。 ・「改善指導カード」を活用して取り組んでいるが、教職員で指導方針の統一が不十分な面があった。 ・学校評価アンケートでは、「服装・頭髪指導が適切に行われているか」について、生徒の73.5%、保護者の81.1%が適切と回答している。	C	・社会人として必要なルールやマナーについて、繰り返し指導する。 ・学習に集中できない生徒への対策を立てる。 ・教員間の授業参観の機会を増やし、共通した指導に結びつける。 ・生活指導規定や学びのルールなどを再確認し、生徒指導にあたる。
	特別支援教育の充実	多様な悩みを抱えた生徒、特に人間関係に悩む生徒もいる。	円滑な人間関係を築き、他者への配慮や気遣いを実践することができる。	・個々の生徒の課題を把握し、ケース会議等を開催し生徒の変化を見逃さない支援を行う。 ・生活指導部・各学年だけでなく、教育相談員、若者サポートステーション、スクールソーシャルワーカー等とも連携して生徒支援を行う。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業を行う。	・学年団、生徒指導部、教育相談員、スクールソーシャルワーカーが連携し、生徒支援を具体化することができた。 ・ケース会議を適宜実施し、情報共有を図ることができ、個別の生徒対応に生かすことができた。 ・学校評価アンケートでは、63.0%の生徒が「悩みや心配事の相談に親身に応じてくれる」と回答している。	B	・教職員研修を充実させ、指導方法を共有し、生徒指導に生かす。 ・教育相談員、スクールソーシャルワーカー、若者サポートステーション等の外部専門家と情報交換を行う機会を増やす。

評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3【希望する進路の実現】 キャリア教育を充実させ、希望進路の実現を図る	すべての生徒の進路保障	自分の進路を実現するために、主体的な進路選択ができない生徒もいる。	自らの進路を熟考することができ、進路実現に向けた行動をすることができる。	・諸ガイダンス、講演などを通じ、保護者・生徒へ適切な進路情報の提供を行う。 ・全職員による指導体制を確立し、徹底した面接・小論文指導等を行う。 ・3年間を見通した進路指導計画を立て、進路指導の充実を図る。	・生徒の 67.8%、保護者の 75.3%が「進路情報の提供が十分である」と学校評価アンケートに回答している。 ・面接指導の充実や進学希望者への各教科の個別指導など、個々の進路指導に応じた指導を行っているが、消極的な生徒への対応が遅れているケースがあった。 ・面接指導を希望しない生徒が例年と比べ多い。	B	・2年次のLHRやSHRの時間を利用して、進路情報の提供をより積極的に行う。 ・全校教職員に面接指導担当を割り振り、指導にあたる。
	キャリア教育の推進	さまざまな行事を通して、早期にキャリア教育に取り組んでいる。	早い時期から、生徒の進路意識を高揚させる。	・授業・産業社会と人間・課題研究などさまざまな場面で生徒の自己表現や発表の場面を増やしていく。 ・新社会人の講話を行い、生徒の進路意識を高める。 ・学校・事業所見学、職場体験実習、農業体験学習などを実施し、進路に対する意識づけを強める。 ・キャリアアドバイザー通信などを通して、適切な進路情報を提供する。	・多くの企業で職場体験を実施した。アンケートでは、高校生活で最も有意義な行事であると回答している。 ・外部の有識者によるマナー講習会を実施し、緊張感のある就職面接指導を行うことができた。 ・キャリアアドバイザー通信等を通して適宜進路情報を提供した。	B	・キャリア教育全体計画の見直しを図る。 ・早い時期から生徒の進路意識を高めるため、来年度は進学系列の生徒に対し、夏季休業中に進路合宿を計画、就職希望者には地元企業による説明会を企画する。
	資格取得の推進	情報ビジネス、アグリライフ系列などそれぞれの系列で資格取得に努めている。	積極的な検定の受検を促し、各種資格取得者を各系列で増加させる。	・福祉や介護教育を推進し、地域に貢献できる人材を養成する。 ・各種資格取得試験について、生徒への丁寧なガイダンスを行う。 ・各種資格取得試験に向けての講習を充実させる。	・あいサポーター研修や認知症サポーター養成研修を新たに取り入れ、福祉への理解を図っている。 ・介護職員初任者研修は、現場実習や社会人講師による講義など、計画通りに実施できた。意欲が低く、欠時が補充の範囲を超えた生徒もいる。 ・放課後、資格取得に向けた個別指導を実施するなど、生徒の意欲向上を図った。	B	・次年度の授業選択にあたり、ガイダンスを念入りに行う。 ・資格取得の重要性を、生徒、保護者に対してさまざまな機会に説明する。

評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4【開かれた学校づくり】 積極的に情報を発信し、家庭・地域との連携を図る	地域交流活動の推進	日野高ショップ、各種ボランティア活動などを通して地域の方々と交流を深めている。	異世代とのコミュニケーションがとれ、地域との交流を通して、自分の考えや意見を適切に表現する能力を育成する。	・地域人材を活用し、授業内容の充実を図る。 ・地域交流を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・福祉そば打ち・福祉餅つきなどのボランティア活動に積極的に取り組む。	・「産業社会と人間」のフィールドワークや「職場体験」、「課題研究」とおして、地域との交流は深まった。 ・「課題研究」では、日野高ショップや米子しんまち天満屋において、開発商品の試食アンケートや、地域事業所とコラボレーションした開発商品を販売し、学校をPRすることができた。 ・日野高ショップ、黒坂小学校との交流学习、鏡陵大学などの地域交流により、コミュニケーション能力を培うことができた。	B	・外部指導者との連絡調整を綿密に行い、生徒が主体的に活動できるよう事業を計画する。
	部活動、生徒会活動による活性化	部活動加入率が低く、団体戦に出場できない部活動もある。陸上競技部や郷土芸能部など地域に出かけ交流活動や公演等を行う部活動もある。	部活動、生徒会活動などを通して、協調性や責任感を身につける。	・部活動を通して、チームワークや集中力、社会性を身につけさせる。 ・部活動やボランティア活動への加入を働きかけ、学校の活性化につなげる。 ・責任感と主体性の育成及び達成感・連帯感を体験させるため、生徒会活動、委員会活動の活性化を図る。	・特定の学年の部活動加入率が低い。 ・家庭クラブが熊本地震義援金募集ボランティア活動を行い、延べ19名の生徒が参加した。 ・郷土芸能部が様々な地区で公演を行い好評を博した。	B	・入学直後の部活動加入活動を充実させる。
	地域や保護者への情報発信	学校広報誌日野川を発行し、ホームページを頻繁に更新するなどして、学校の様子を地域や保護者に発信している。	学校の様々な情報を積極的に発信し、保護者・地域・中学校からの日野高理解につなげる。	・「開かれた学校づくり」に取り組み、保護者や地域と連携して、諸活動に取り組む。 ・新聞やテレビなどのマスメディアを活用した広報をより積極的に行う。 ・学校報告会、PTA総会の公開授業などを土曜日開催とし、保護者が出席しやすい状況を整える。	・報道への資料提供を昨年度に比べ頻繁に行うことができた。 ・地域防災無線や広報誌「日野川」とおして積極的な広報活動を行っている。 ・PTA総会や学校報告会に保護者の出席が少ない。 ・ホームページの更新が遅れることがあった。	B	・簡単にホームページが更新できるよう、ブログ形式のホームページにシステムを変更することを検討する。

評価基準 A:ほぼ達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分